

○ 大多喜ダムの概要

【目的】

- ① 沢山川、西部田川沿川地域の水害を防除
 - ② 沢山川、夷隅川沿川の流水の正常な機能の維持および増進
- ※水道事業者の参画中止（H19.5）に伴い、河川単独事業として再評価を実施

【施設諸元】

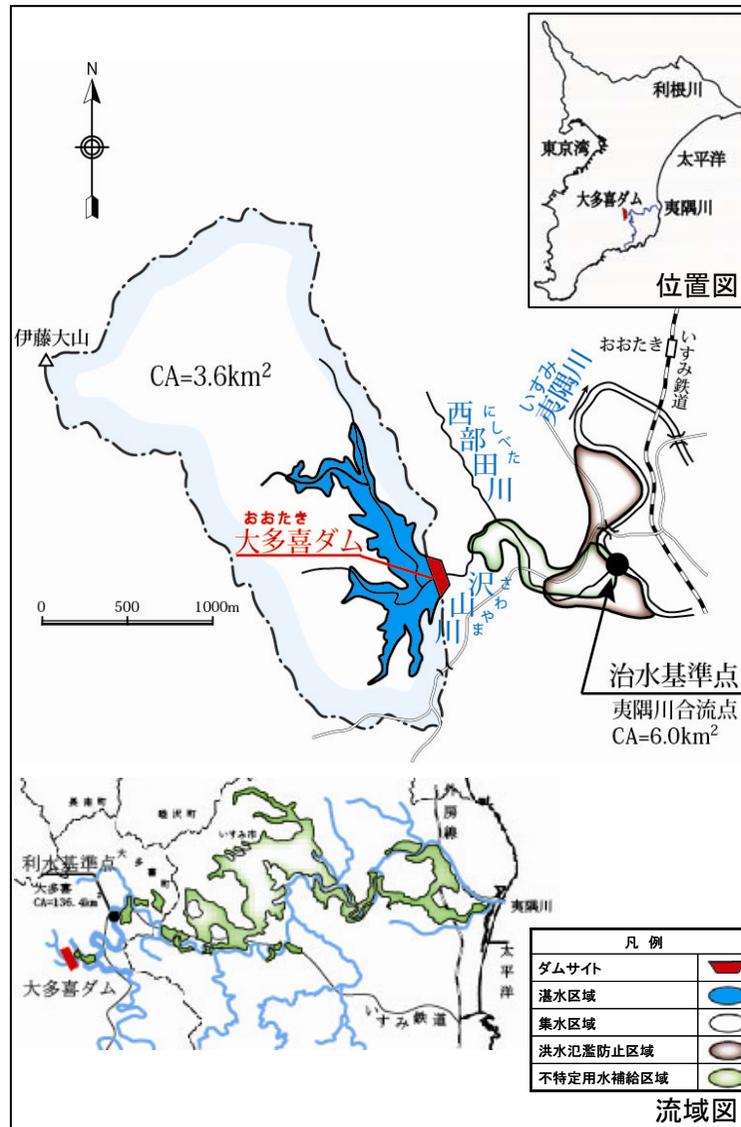
- ・総貯水容量 : 1,300,000m³
- ・洪水調節容量 : 650,000m³
- ・利水容量(不特定) : 500,000m³
- ・堆砂容量 : 150,000m³
- ・湛水面積 : 170,000 m²
- ・堤高: 32.5m ・堤頂長: 318m ・堤体積: 547,200 m³

【事業費・工期】

- ・事業費 : 158.6 億円
- (残事業費 : 91.3 億円)
- ・工期 : 平成 29 年度

【事業経緯】

- ・予備調査
平成元年～平成 2 年度
- ・建設事業
平成 3 年度 河川総合開発事業採択
平成 7 年度 用地買収開始
平成 8 年度 進入道路整備、付替道路工事着手
平成 19 年度 南房総広域水道企業団参画中止
(評価委員会中止が妥当(4月)→企業団参画中止(5月))
平成 19 年度 夷隅川流域委員会で再評価実施
(H19.8～H22.12 流域委員会で 4 回審議)
平成 22 年度 大多喜ダム建設事業の中止(H23.3.4)



○ 目的別の状況

① 沢山川、西部田川の治水計画

[現行計画] 全川に渡り流下能力が低く、現況の治水安全度は 1/3 程度。河道改修とダム整備により基準点において河道配分 60m³/s ダムで 60m³/s を調節する計画(目標規模 1/50)

対処方針

・ダム案と治水代替案との経済比較の結果、河道改修(120m³/s)による整備が経済的

② 沢山川、西部田川及び夷隅川の不特定利水計画

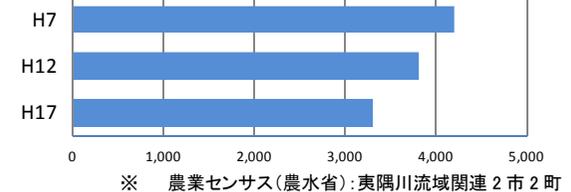
[現行計画] かんがい期の河川水量の減少等の課題に対し、大多喜ダムを含むダム群で対応

対処方針

夷隅川水系では、近年、
・灌漑面積は減少傾向
・合併浄化槽の設置数増加等により水質は環境基準を満足

流況等の改善により、大多喜ダムによる不特定利水計画の緊急性は低いと判断

水田面積の推移(ha)



○ 千葉県への対応方針

本事業は沢山川・西部田川の治水対策及び、南房総地域の利水の必要性を併せ持つダム事業として進めてきたが、水道事業者の撤退によりダム事業の見直しを行った結果、治水対策としては河道改修による方法が経済的となり、ダム建設事業を中止することにした。なお、今後の治水対策については、現在、策定中の夷隅川水系河川整備計画の中で具体的に位置づけて行く。